

令和 7 年 6 月 25 日

文部科学大臣 殿

〔設置者の名称〕 学校法人 尽誠学園

〔代表者の役職〕 理事長 〔代表者の氏名〕 大久保 直明

大学等における修学の支援に関する法律第 3 条第 1 項の確認に係る申請書

○申請者に関する情報

大学等の名称	香川短期大学
大学等の種類 (いずれかに○を付すこと)	(大学・短期大学・高等専門学校・専門学校)
大学等の所在地	香川県綾歌郡宇多津町浜一番丁 10 番地
学長又は校長の氏名	加野 芳正
設置者の名称	学校法人 尽誠学園
設置者の主たる事務所の所在地	香川県善通寺市生野町 855 番地 1
設置者の代表者の氏名	大久保 直明
申請書を公表する予定のホームページアドレス	https://www.kjc.ac.jp/

※ 以下のいずれかの□にレ点 (☑) を付けて下さい。

☐ 確認申請

大学等における修学の支援に関する法律施行規則第 5 条第 1 項に基づき確認申請書を提出します。

☒ 更新確認申請書の提出

大学等における修学の支援に関する法律施行規則第 5 条第 3 項に基づき更新確認申請書を提出します。

※ 以下の事項を必ず確認の上、すべての□にレ点 (☑) を付けて下さい。

☒ この申請書 (添付書類を含む。) の記載内容は、事実と相違ありません。☒ 確認を受けた大学等は、大学等における修学の支援に関する法律 (以下「大学等修学支援法」という。) に基づき、基準を満たす学生等を減免対象者として認定し、その授業料及び入学金を減免する義務があることを承知しています。☒ 大学等が確認を取り消されたり、確認を辞退した場合も、減免対象者が卒業するまでの間、その授業料等を減免する義務があることを承知しています。

- ☒ この申請書に虚偽の記載をするなど、不正な行為をした場合には、確認を取り消されたり、交付された減免費用の返還を命じられる場合があるとともに、減免対象者が卒業するまでの間、自らが費用を負担して、その授業料等を減免する義務があることを承知しています。
- ☒ 申請する大学等及びその設置者は、大学等修学支援法第3条第2項第3号及び第4号に該当します。

○各様式の担当者名と連絡先一覧

様式番号	所属部署・担当者名	電話番号	電子メールアドレス
第1号	総務部・高島美代子	0877-49-5500	takashima@kjc.ac.jp
第2号の1	学生支援部・坂本毅	0877-49-5500	sakamoto@kjc.ac.jp
第2号の2	総務部・高島美代子	0877-49-5500	takashima@kjc.ac.jp
第2号の3	学生支援部・坂本毅	0877-49-5500	sakamoto@kjc.ac.jp
第2号の4	学生支援部・坂本毅	0877-49-5500	sakamoto@kjc.ac.jp

○添付書類

※ 以下の事項を必ず確認し、必要な書類の□にレ点（☒）を付けた上で、これらの書類を添付してください。（設置者の法人類型ごとに添付する資料が異なることに注意してください。）

「(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置」関係

- ☒ 実務経験のある教員等による授業科目の一覧表《省令で定める単位数等の基準数相当分》
- ☒ 実務経験のある教員等による授業科目の授業計画書（シラバス）《省令で定める単位数等の基準数相当分》

「(2)-①学外者である理事の複数配置」関係

- ☒ 《一部の設置者のみ》大学等の設置者の理事（役員）名簿

「(2)-②外部の意見を反映することができる組織への外部人材の複数配置」関係

- ☐ 《一部の設置者のみ》大学等の教育について外部人材の意見を反映することができる組織に関する規程とその構成員の名簿

「(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表」関係

- ☒ 客観的な指標に基づく成績の分布状況を示す資料
- ☒ 実務経験のある教員等による授業科目の授業計画書（シラバス）《省令で定める単位数等の基準数相当分》【再掲】

その他

- ☒ 《私立学校のみ》経営要件を満たすことを示す資料
- ☒ 確認申請を行う年度において設置している学部等の一覧

(添付書類) 経営要件を満たすことを示す資料

学校コード	F237310110351	学校名	香川短期大学
設置者名	学校法人 尽誠学園		

I. ①直前3年度の決算の事業活動収支計算書における「経常収支差額」の状況

	経常収入(A)	経常支出(B)	差額(A)-(B)
申請前年度の決算	2,295,036,240円	2,426,976,455円	-131,940,215円
申請2年度前の決算	2,406,308,481円	2,384,540,511円	21,767,970円
申請3年度前の決算	2,355,311,209円	2,344,071,885円	11,239,324円

I. ②直前の決算の貸借対照表における「運用資産－外部負債」の状況

	運用資産(C)	外部負債(D)	差額(C)-(D)
申請前年度の決算	1,366,484,713円	135,107,900円	1,231,376,813円

II. 申請校の直近3年度の収容定員充足率の状況

	収容定員(E)	在学生等の数(F)	収容定員充足率(F)/(E)
今年度(申請年度)	470人	389人	82%
前年度	475人	412人	86%
前々年度	480人	453人	94%

大学・短期大学・高等専門学校で、II. 申請校の直近3年度の全ての収容定員充足率が8割未満の場合
申請前年度に当該学校を卒業した者について、今年度(申請年度)5月1日時点の状況について

(A)又は(B)のいずれかを記載

・申請校の直近の進学・就職率の状況(A)学校基本統計を利用する場合

	卒業者数(G)	進学者数+就職者数(H)	進学・就職率(H)/(G)
申請前年度の状況			#DIV/0!

・申請校の直近の進学・就職率の状況(B)学校基本統計を利用しない場合

	進学希望者+就職希望者(I)	進学者数+就職者数(J)	進学・就職率(J)/(I)
申請前年度の状況			#DIV/0!

(I. ②の補足資料)「運用資産」又は「外部負債」として計上した勘定科目一覧

○「運用資産」に計上した勘定科目

勘定科目の名称	資産の内容	申請前年度の決算における金額
現金預金	現金、普通預金、定期預金	647,385,198円
教育振興引当特定資産	尽誠学園振興基金	3,850,727円
有価証券	社債、投資信託	715,248,788円

○「外部負債」に計上した勘定科目

勘定科目の名称	負債の内容	申請前年度の決算における金額
長期未払金	リース資産、割賦購入資産	7,830,262円
未払金	光熱水費他各種経費	127,277,638円
		円

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	香川短期大学
設置者名	学校法人 尽誠学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通科目	学部等 共通科目	専門科目	合計		
	食物栄養学科（～R7.3 生活文化学科食物栄養専攻課程）	夜・通信	4		5	9	7	
	子ども学科第Ⅰ部	夜・通信			12	16	7	
	子ども学科第Ⅲ部	夜・通信			12	16	7	
	経営情報・デザイン学科（～R7.3 経営情報科）	夜・通信			24	28	7	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

<https://aap.kjc.ac.jp/aa/syllabus/se0010.aspx?me=EJ&opi=mt0010>
シラバス検索システムで「実務経験のある教員による授業科目」でキーワード検索すると結果が一覧で表示され、当該科目のシラバスを閲覧することもできる。

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	香川短期大学
設置者名	学校法人 尽誠学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

<https://www.kjc.ac.jp/about/structure-history/>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤 の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	㈱三幸商会 代表取締役	自：令和3年5月28日 至：令和7年5月27日	法人の管理運営全般。 自律的運営の促進。
非常勤	㈱経営政策研究所 代表取締役	自：令和3年5月28日 至：令和7年5月27日	法人の管理運営全般。 自律的運営の促進。
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	香川短期大学
設置者名	学校法人 尽誠学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) 各学科・専攻課程の教育上の目的を達成するため、カリキュラム・ポリシーの下、短期大学設置基準等関係法令に合致する教育課程を体系的に編成している。 学科・専攻課程ごとの教育課程は、各授業科目を必修科目、選択必修科目及び自由選択科目に分け、これを各年次に配当して編成し、教育課程一覧及びカリキュラム・ツリーを学生便覧等で学生に示している。授業は、講義、演習、実験、実習もしくは実技のいずれかにより、またはこれらの併用により行う。 授業の内容及び授業計画については、各科目担当の教員が作成し、シラバスに明記している。 ○授業計画の作成・公表に係る取組及びその流れの概要は以下のとおりである。 1. 各学科にて次年度教育課程の見直しを8月までに行う。 2. カリキュラムの改正を行う場合は教務委員会で諮り、委員会で決定した改正案を8月末の教授会で審議し、決定する。 3. 教授会承認後、各学科で次年度開講科目の開講時期及び担当者の検討を行い、科目担当者にシラバスの作成を依頼する。 4. 科目担当者は、教務グループが作成する「香川短期大学 Web シラバス作成マニュアル」に沿って1月末までに学内ポータルサイトにてシラバスを作成し、仮登録の状態で各学科の教務委員に提出する。 5. 教務委員は2月末までに誤字脱字、記入漏れ確認等の第一次チェックを行い、所属学科長に提出する。 6. 学科長は、3月末までに科目の記載内容が関連法規や本学のカリキュラム・ポリシーに則しているかなど、第二次チェックを行う。 7. 第二次チェック完了後、教務グループにて本登録を行い、4月1日にWeb上で公開する。	
授業計画書の公表方法	https://aap.kjc.ac.jp/aa/syllabus/se0010.aspx?me=EJ&opi=mt0010
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) 成績評価は、教育目標に則って、学修成果を獲得したかどうかを測ることにより行っている。具体的な取組は以下のとおりである。 ・全科目のシラバスに到達目標、授業内容、事前事後学習の時間及び内容、授業時間数、成績評価の方法・基準、教科書・参考書等を明示 ・シラバスにて学生に示された「成績評価の方法・基準」に則り、客観的に学修成果を測り、評価 ・科目の内容・特性に応じ、定期試験、あるいは試験に代わる提出物、発表等で厳格に評価を実施 ・科目担当者は各学生の成績を0～100点で採点し、その得点によって以下のように成績評価を決定 - 秀…90～100点、優…80～89点、良…70～79点、可…60～69点、不可…0～59点 ・本学の定める「学生指導のガイドライン」に則った担任指導により、学修意欲を把握	
3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。	
(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要) 本学では、客観的な指標の設定にファンクショナル GPA (以下「GPA」という。)を採用しており、以下の方法で算出している。 <算出方法> GP 及び GPA は、次の式により算出するものとし、その数に小数点以下第二位未満の端数があるときは、小数点以下第三位の値を切捨てするものとする。 $GP = (100 \text{ 点満点の得点} - 55) \div 10$ ※GP<0.50 の場合は GP=0.00 とする。 $GPA = (GP \times \text{当該科目の単位数}) \text{ の総和} \div \text{履修総単位数}$ 次の科目は、GPA の算出には含めない。 (1) 「合格」及び「不合格」で成績を評価する科目 (2) 他の大学等で修得した科目を、本学で既修得単位として認定した科目 (3) 履修登録修正期限までに履修登録を取り消した科目 (4) 卒業の要件に含まれない「その他の科目」として単位認定された科目	
客観的な指標の算出方法の公表方法	https://www.kjc.ac.jp/current-student/record-class/
4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。	

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要) ○卒業の認定方針の策定・公表に係る取組及びその流れの概要は以下のとおりである。 1. 毎年、各学科にて卒業の認定方針の見直しを行う。 2. 卒業の認定方針の改正を行う場合は自己評価委員会で諮り、委員会で決定した改正案を直近の教授会で審議し、決定する。 3. 教授会承認後、次年度開始までに『学生便覧』、Web 等で公表を行う。 (卒業の認定方針の内容は「(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要」参照) ○卒業の認定方針の適切な実施に係る取組及びその流れの概要は以下のとおりである。 1. 卒業年次の成績確定後、各学科にて卒業認定学科会を行う。 2. 卒業認定教授会にて学科原案を確認し、学生の卒業認定を行う。 3. 教授会承認後、卒業認定発表を行う。	
卒業の認定に関する 方針の公表方法	https://www.kjc.ac.jp/about/policy/#section-4

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	香川短期大学
設置者名	学校法人 尽誠学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.kjc.ac.jp/about/information-disclosure/#section-4
収支計算書又は損益計算書	https://www.kjc.ac.jp/about/information-disclosure/#section-4
財産目録	https://www.kjc.ac.jp/about/information-disclosure/#section-4
事業報告書	https://www.kjc.ac.jp/about/information-disclosure/#section-4
監事による監査報告(書)	https://www.kjc.ac.jp/about/information-disclosure/#section-4

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:	対象年度:
公表方法:	
中長期計画(名称:	対象年度:
公表方法:	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: https://www.kjc.ac.jp/about/university-evaluation/

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: https://www.kjc.ac.jp/about/university-evaluation/

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 食物栄養学科
教育研究上の目的（公表方法： https://www.kjc.ac.jp/about/spirit/ ）
（概要） ① 豊かな教養と人間性を備えた人材の育成 ② 専門的知識と技能をもち、食を通して人々の健康を維持増進できる栄養士の養成 ③ 相手を敬い、地域社会の発展に寄与する人材の育成
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法： https://www.kjc.ac.jp/about/policy/ ）
（概要） 本学科は学則に定める修業年限以上在学し、同じく学則に定める単位数を修得し、次に掲げる目標を達成した学生に対して卒業を認定し、短期大学士の学位を授与します。 ・ 栄養及び食に関する専門的知識と技能を身につけている ・ 食環境の変化や最新の栄養情報を自ら収集し、それらに対応できる柔軟な思考力、的確な判断力を身につけている ・ 栄養と食に関わる者としての倫理観、使命感を持ち、社会に貢献しようとする意欲と態度を身につけている ・ 他者と協調・協働するために必要なコミュニケーション能力を身につけている
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： https://www.kjc.ac.jp/about/policy/ ）
（概要） 本学科の教育内容・教育方法は次のとおりです。 1. 健康で文化的な社会生活をおくるための基礎的な知識・技能・思考力・判断力・表現力に加え、グローバル社会で活用できる幅広い知識・技能及び社会の出来事に関心を持ち、よりよい社会を創造する意欲と態度を身につけるため、幅広い分野から構成される共通科目を配置します。 2. 各授業科目について、シラバスに履修者の到達目標、授業の到達目標と学修成果との対応、授業計画（授業内容及び事前事後学習と時間）、オフィスアワー、学習項目とその成績評価方法及び配点比率等を明記し、周知します。 3. 授業科目等に関する学生の質問・相談に応じるため、全教員がオフィスアワーを設け、学生の理解を助けます。 4. 栄養及び食に関する専門的技術・技能を身につけるため、栄養士免許取得に係わる専門分野の「社会生活と健康」、「人体の構造と機能」、「食品と衛生」、「栄養と健康」、「栄養の指導」、「給食の運営」を体系的に学ぶための講義や演習、実習をバランスよく配置し、系統的な教育課程の編成を行います。授業科目やその配当年次は、実習や演習を通して、各専門分野における専門知識・技能を磨き、実践力を高められるように設定します。 5. 栄養と食に関わる多様な事柄に対して関心、意欲を持ち、積極的に学ぶ姿勢を身につけるために、特別研究を行う科目を設け、学びの集大成とします。さらに様々な資格取得や検定合格をめざすプログラムを設定し、一人一人の進路や関心に応じて学生の成長をサポートします。 6. 栄養士としての倫理観、使命感を持ち、最新の栄養情報に対応できる柔軟な思考力を養うために第一線で活躍する栄養士や調理分野の外部講師による講義や実習、食品加工施設見学等の体験型授業を行います。また、他者と協調・協働するためのコミュニケーション能力を身につけるために多くの実習を行い、地域の食育活動も体験します。
入学者の受入れに関する方針（公表方法： https://www.kjc.ac.jp/about/policy/ ）

(概要)

本学科では、次のような学力・能力・資質等を備えている学生を求めています。

(知識・技能)

- ① 栄養士の仕事を理解していること
- ② 栄養士免許取得の学習に必要な基礎学力や技能を身につけていること

(思考力・判断力・表現力)

- ③ 食と健康に関する情報を収集・抽出・選択し、正しく人に伝えられること

(主体性・協働性等)

- ④ 食と人々の健康に関する事柄に関心を持ち、その分野における課題に主体的に取り組む意欲があること
- ⑤ 他者と協調・協働しながら、食物栄養に関する学びや活動に取り組む態度を身につけていること

(栄養管理コース)

- ⑥ 栄養管理に関する事柄に関心を持ち、栄養士免許取得を目標に、学習する意欲のあること

(食品栄養コース)

- ⑥ 調理や食品開発に関する事柄に関心を持ち、栄養士免許と併せて、食品関連資格の取得を目指して学習する意欲のあること

【選抜方法の概要】

選抜ごとに、入学前の学修成果を以下の方法で把握し、評価します。

1. 基本方針

- ① アドミッション・ポリシーの入学者に求める学力・能力・資質等にもとづき、志願者の『学力の三要素：「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・協働性等」』を多面的・総合的に評価します。
- ② 『学力の三要素』の評価のために、書類審査、面接（含：口頭試問）、小論文、学力試験を実施します。

2. 入試概要

○ 総合型選抜・資格利用型選抜

高等学校等での教科面における学習の達成度やこれまでの活動内容や意欲をみるため、調査書及び活動報告書・志望理由書等を評価します。また、思考力・判断力・表現力、主体性・協働性・倫理観や各学科における基礎的な知識をみるため、口頭試問を含めた面接試験を実施します。さらに、資格利用型選抜では、合格した検定や取得した資格を評価します。

○ 学校推薦型選抜・指定校選抜

推薦書とともに、高等学校等での教科面における学習の達成度や、思考力・判断力・表現力、主体性・協働性・倫理観や各学科における基礎的な知識をみるため、調査書の評価及び口頭試問を含めた面接試験を実施します。また、学校推薦型選抜では、小論文を課し、大学生に求められる資質としての論述の能力や文章読解力を評価します。指定校選抜では、活動報告書に記載された高校時代の探究活動等を評価します。

○ 一般選抜

高等学校等での教科面における学習の達成度や思考力・判断力・表現力、主体性・協働性・倫理観や各学科における基礎的な知識をみるため、調査書の評価及び口頭試問を含めた面接試験を実施します。また、国語や英語・数学を含めた総合問題、小論文を課し、大学生に求められる資質としての論述の能力、文章読解力や英語を読み書く力、数学的思考力を評価します。

○ 社会人選抜・留学生選抜・帰国生選抜

小論文、面接等により評価します。

教育研究上の目的（公表方法：https://www.kjc.ac.jp/about/spirit/） （概要） ① 豊かな人格識見をもち、幅広い教養を身につけた人材の育成 ② 専門的知識と技術をもち、多様なニーズに柔軟に対応できる保育者の養成 ③ 社会と関わり合い、社会に貢献できる人材の育成
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：https://www.kjc.ac.jp/about/policy/） （概要） 本学科は学則に定める修業年限以上在学し、同じく学則に定める単位数を修得し、次に掲げる目標を達成した学生に対して卒業を認定し、短期大学士の学位を授与します。 ・ 保育の本質と目的について理解し、保育者として必要な専門的知識及び専門的技術・技能を身につけている ・ 子どもを取り巻く環境の変化に対応できる思考力、判断力、表現力及びコミュニケーション能力を身につけている ・ 保育者としての倫理観と使命感及び保育に対する関心と意欲を持っている ・ 自らの資質や能力を高めようとする態度及び他者と協調・協働しようとする態度を身につけている
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：https://www.kjc.ac.jp/about/policy/） （概要） 本学科の教育内容・教育方法は次のとおりです。 1. 健康で文化的な社会生活をおくるための基礎的な知識・技能・思考力・判断力・表現力に加え、グローバル社会で活用できる幅広い知識・技能及び社会の出来事に関心を持ち、よりよい社会を創造する意欲と態度を身につけるため、幅広い分野から構成される共通科目を配置します。 2. 各授業科目について、シラバスに履修者の到達目標、授業の到達目標と学修成果との対応、授業計画（授業内容及び事前事後学習と時間）、オフィスアワー、学習項目とその成績評価方法及び配点比率等を明記し、周知します。 3. 授業科目等に関する学生の質問・相談に応じるため、全教員がオフィスアワーを設け、学生の理解を助けます。 4. 保育の本質と目的について理解し、保育者として必要な専門的知識及び技術・技能を身につけるため、幼稚園教諭二種免許状、保育士資格取得に係わる授業科目をその体系に基づき、理論と実践のつながりを意識しながら学べるように学年・学期別に科目配置を行います。 5. 保育に係る多様な事柄に対して関心、意欲を持ち、保育者としての資質や能力を高めようとする態度を身につけるため、附属幼稚園や関連保育園等で子どもたちの成長を間近に見つめながら学べる科目を配置します。 6. 保育者としての倫理観及び使命感、主体的に子どもを取り巻く環境の変化に対応できる思考力及び判断力、他者と協調・協働するための表現力及びコミュニケーション能力を身につけるために、地域に目を向けた保育体験やアクティブラーニング等の多様な教育方法を取り入れた指導を行います。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：https://www.kjc.ac.jp/about/policy/）

(概要) 本学科では、次のような学力・能力・資質等を備えている学生を求めています。 (知識・技能) ① 保育者として必要な専門的知識・技術を修得することができる基礎学力や技能を身につけていること (思考力・判断力・表現力) ② 子どもの発達や保育に関する情報を収集・抽出・選択し、それらに基づいて自分の考えを表現できること (主体性・協働性等) ③ 保育に係る多様な事柄に関心を持ち、倫理観や使命感を持って、保育者としての資質や能力を高めようとする主体性を身につけていること ④ 他者と協調・協働しながら、保育に関する学びや活動に取り組む態度を身につけていること 【選抜方法の概要】 選抜ごとに、入学前の学修成果を以下の方法で把握し、評価します。 1. 基本方針 ① アドミッション・ポリシーの入学者に求める学力・能力・資質等にもとづき、志願者の『学力の三要素：「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・協働性等」』を多面的・総合的に評価します。 ② 『学力の三要素』の評価のために、書類審査、面接（含：口頭試問）、小論文、学力試験を実施します。 2. 入試概要 ○ 総合型選抜・資格利用型選抜 高等学校等での教科面における学習の達成度やこれまでの活動内容や意欲をみるため、調査書及び活動報告書・志望理由書等を評価します。また、思考力・判断力・表現力、主体性・協働性・倫理観や各学科における基礎的な知識をみるため、口頭試問を含めた面接試験を実施します。さらに、資格利用型選抜では、合格した検定や取得した資格を評価します。 ○ 学校推薦型選抜・指定校選抜 推薦書とともに、高等学校等での教科面における学習の達成度や、思考力・判断力・表現力、主体性・協働性・倫理観や各学科における基礎的な知識をみるため、調査書の評価及び口頭試問を含めた面接試験を実施します。また、学校推薦型選抜では、小論文を課し、大学生に求められる資質としての論述の能力や文章読解力を評価します。指定校選抜では、活動報告書に記載された高校時代の探究活動等を評価します。 ○ 一般選抜 高等学校等での教科面における学習の達成度や思考力・判断力・表現力、主体性・協働性・倫理観や各学科における基礎的な知識をみるため、調査書の評価及び口頭試問を含めた面接試験を実施します。また、国語や英語・数学を含めた総合問題、小論文を課し、大学生に求められる資質としての論述の能力、文章読解力や英語を読み書く力、数学的思考力を評価します。 ○ 社会人選抜・留学生選抜・帰国生選抜 小論文、面接等により評価します。

学部等名	子ども学科第Ⅲ部
教育研究上の目的（公表方法： https://www.kjc.ac.jp/about/spirit/ ）	

(概要) ① 豊かな人格識見をもち、幅広い教養を身につけた人材の育成 ② 専門的知識と技術をもち、多様なニーズに柔軟に対応できる保育者の養成 ③ 社会と関わり合い、社会に貢献できる人材の育成
卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法:https://www.kjc.ac.jp/about/policy/) (概要) 本学科は学則に定める修業年限以上在学し、同じく学則に定める単位数を修得し、次に掲げる目標を達成した学生に対して卒業を認定し、短期大学士の学位を授与します。 ・ 保育の本質と目的について理解し、保育者として必要な専門的知識及び専門的技術・技能を身につけている ・ 子どもを取り巻く環境の変化に対応できる思考力、判断力、表現力及びコミュニケーション能力を身につけている ・ 保育者としての倫理観と使命感及び保育に対する関心と意欲を持っている ・ 自らの資質や能力を高めようとする態度及び他者と協調・協働しようとする態度を身につけている
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法:https://www.kjc.ac.jp/about/policy/) (概要) 本学科の教育内容・教育方法は次のとおりです。 1. 健康で文化的な社会生活をおくるための基礎的な知識・技能・思考力・判断力・表現力に加え、グローバル社会で活用できる幅広い知識・技能及び社会の出来事に関心を持ち、よりよい社会を創造する意欲と態度を身につけるため、幅広い分野から構成される共通科目を配置します。 2. 各授業科目について、シラバスに履修者の到達目標、授業の到達目標と学修成果との対応、授業計画（授業内容及び事前事後学習と時間）、オフィスアワー、学習項目とその成績評価方法及び配点比率等を明記し、周知します。 3. 授業科目等に関する学生の質問・相談に応じるため、全教員がオフィスアワーを設け、学生の理解を助けます。 4. 保育の本質と目的について理解し、保育者として必要な専門的知識及び技術・技能を身につけるため、幼稚園教諭二種免許状、保育士資格取得に係わる授業科目をその体系に基づき、理論と実践のつながりを意識しながら学べるように学年・学期別に科目配置を行います。 5. 保育に係る多様な事柄に対して関心、意欲を持ち、保育者としての資質や能力を高めようとする態度を身につけるため、附属幼稚園や関連保育園等で子どもたちの成長を間近に見つめながら学べる科目を配置します。 6. 保育者としての倫理観及び使命感、主体的に子どもを取り巻く環境の変化に対応できる思考力及び判断力、他者と協調・協働するための表現力及びコミュニケーション能力を身につけるために、地域に目を向けた保育体験やアクティブラーニング等の多様な教育方法を取り入れた指導を行います。
入学者の受入れに関する方針 (公表方法:https://www.kjc.ac.jp/about/policy/)

(概要) 本学科では、次のような学力・能力・資質等を備えている学生を求めています。 (知識・技能) ① 保育者として必要な専門的知識・技術を修得することができる基礎学力や技能を身につけていること (思考力・判断力・表現力) ② 子どもの発達や保育に関する情報を収集・抽出・選択し、それらに基づいて自分の考えを表現できること (主体性・協働性等) ③ 保育に係る多様な事柄に関心を持ち、倫理観や使命感を持って、保育者としての資質や能力を高めようとする主体性を身につけていること ④ 他者と協調・協働しながら、保育に関する学びや活動に取り組む態度を身につけていること 【選抜方法の概要】 選抜ごとに、入学前の学修成果を以下の方法で把握し、評価します。 1. 基本方針 ① アドミッション・ポリシーの入学者に求める学力・能力・資質等にもとづき、志願者の『学力の三要素：「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・協働性等」』を多面的・総合的に評価します。 ② 『学力の三要素』の評価のために、書類審査、面接（含：口頭試問）、小論文、学力試験を実施します。 2. 入試概要 ○ 総合型選抜・資格利用型選抜 高等学校等での教科面における学習の達成度やこれまでの活動内容や意欲をみるため、調査書及び活動報告書・志望理由書等を評価します。また、思考力・判断力・表現力、主体性・協働性・倫理観や各学科における基礎的な知識をみるため、口頭試問を含めた面接試験を実施します。さらに、資格利用型選抜では、合格した検定や取得した資格を評価します。 ○ 学校推薦型選抜・指定校選抜 推薦書とともに、高等学校等での教科面における学習の達成度や、思考力・判断力・表現力、主体性・協働性・倫理観や各学科における基礎的な知識をみるため、調査書の評価及び口頭試問を含めた面接試験を実施します。また、学校推薦型選抜では、小論文を課し、大学生に求められる資質としての論述の能力や文章読解力を評価します。指定校選抜では、活動報告書に記載された高校時代の探究活動等を評価します。 ○ 一般選抜 高等学校等での教科面における学習の達成度や思考力・判断力・表現力、主体性・協働性・倫理観や各学科における基礎的な知識をみるため、調査書の評価及び口頭試問を含めた面接試験を実施します。また、国語や英語・数学を含めた総合問題、小論文を課し、大学生に求められる資質としての論述の能力、文章読解力や英語を読み書く力、数学的思考力を評価します。 ○ 社会人選抜・留学生選抜・帰国生選抜 小論文、面接等により評価します。

学部等名 経営情報・デザイン学科
教育研究上の目的（公表方法： https://www.kjc.ac.jp/about/spirit/ ）

(概要) ① 経営情報に関する基礎理論と実践の両輪をベースにした人材の育成 ② 情報ソリューションビジネスに対応できる人材の育成 ③ 社会人としての広い視野、教養及び豊かな創造力を兼ね備えた人材の育成
卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法:https://www.kjc.ac.jp/about/policy/) (概要) 本学科は学則に定める修業年限以上在学し、同じく学則に定める単位数を修得し、次に掲げる目標を達成した学生に対して卒業を認定し、短期大学士の学位を授与します。 ・ 保育の本質と目的について理解し、保育者として必要な専門的知識及び専門的技術・技能を身につけている ・ 子どもを取り巻く環境の変化に対応できる思考力、判断力、表現力及びコミュニケーション能力を身につけている ・ 保育者としての倫理観と使命感及び保育に対する関心と意欲を持っている ・ 自らの資質や能力を高めようとする態度及び他者と協調・協働しようとする態度を身につけている
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法:https://www.kjc.ac.jp/about/policy/) (概要) 本学科の教育内容・教育方法は次のとおりです。 1. 健康で文化的な社会生活をおくるための基礎的な知識・技能・思考力・判断力・表現力に加え、グローバル社会で活用できる幅広い知識・技能及び社会の出来事に関心を持ち、よりよい社会を創造する意欲と態度を身につけるため、幅広い分野から構成される共通科目を配置します。 2. 各授業科目について、シラバスに履修者の到達目標、授業の到達目標と学修成果との対応、授業計画（授業内容及び事前事後学習と時間）、オフィスアワー、学習項目とその成績評価方法及び配点比率等を明記し、周知します。 3. 授業科目等に関する学生の質問・相談に応じるため、全教員がオフィスアワーを設け、学生の理解を助けます。 4. 情報ビジネスとデザインアートの分野における専門的知識を身につけるため、学年・学期別に科目配置を行います。 5. 柔軟な思考力を持って適切に判断でき、実践的なコミュニケーション能力を身につけ、健全な職業観を持ち、広い視野と深い教養及び豊かな創造力を身につけるため、科目を配置します。 6. 学問的情熱を持ち、社会に対する高い関心と深い洞察力を身につけ、情報ビジネスとデザインアートの分野に求められているマネジメント能力及び問題解決能力を身につけるため、アクティブラーニング等の多様な教育方法を取り入れた指導を行います。
入学者の受入れに関する方針 (公表方法:https://www.kjc.ac.jp/about/policy/)

(概要)

本学科では、次のような学力・能力・資質等を備えている学生を求めています。

(知識・技能)

- ① 情報ビジネスやデザインアートの分野に必要な専門的知識・技術を習得することができる基礎学力や技能を身につけていること

(思考力・判断力・表現力)

- ② 情報ビジネスやデザインアートの分野に関する情報を収集・抽出・選択し、それらに基づいて自分の考えを表現できること

(主体性・協働性等)

- ③ 情報ビジネスやデザインアートに関する事柄に関心を持ち、倫理観や使命感を持って、社会人としての資質や能力を高めようとする主体性を身につけていること
- ④ 他者と協調・協働しながら、情報ビジネスやデザインアートに関する学びや活動に取り組む態度を身につけていること

【選抜方法の概要】

選抜ごとに、入学前の学修成果を以下の方法で把握し、評価します。

1. 基本方針

- ① アドミッション・ポリシーの入学者に求める学力・能力・資質等にもとづき、志願者の『学力の三要素：「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・協働性等」』を多面的・総合的に評価します。
- ② 『学力の三要素』の評価のために、書類審査、面接（含：口頭試問）、小論文、学力試験を実施します。

2. 入試概要

○ 総合型選抜・資格利用型選抜

高等学校等での教科面における学習の達成度やこれまでの活動内容や意欲をみるため、調査書及び活動報告書・志望理由書等を評価します。また、思考力・判断力・表現力、主体性・協働性・倫理観や各学科における基礎的な知識をみるため、口頭試問を含めた面接試験を実施します。さらに、資格利用型選抜では、合格した検定や取得した資格を評価します。

○ 学校推薦型選抜・指定校選抜

推薦書とともに、高等学校等での教科面における学習の達成度や、思考力・判断力・表現力、主体性・協働性・倫理観や各学科における基礎的な知識をみるため、調査書の評価及び口頭試問を含めた面接試験を実施します。また、学校推薦型選抜では、小論文を課し、大学生に求められる資質としての論述の能力や文章読解力を評価します。指定校選抜では、活動報告書に記載された高校時代の探究活動等を評価します。

○ 一般選抜

高等学校等での教科面における学習の達成度や思考力・判断力・表現力、主体性・協働性・倫理観や各学科における基礎的な知識をみるため、調査書の評価及び口頭試問を含めた面接試験を実施します。また、国語や英語・数学を含めた総合問題、小論文を課し、大学生に求められる資質としての論述の能力、文章読解力や英語を読み書く力、数学的思考力を評価します。

○ 社会人選抜・留学生選抜・帰国生選抜

小論文、面接等により評価します。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：<https://www.kjc.ac.jp/about/structure-history/>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
－	3 人	－					3 人
食物栄養学科	－	5 人	0 人	2 人	1 人	2 人	10 人
子ども学科第Ⅰ部		3 人	3 人	0 人	0 人	0 人	6 人
子ども学科第Ⅲ部		3 人	2 人	1 人	0 人	0 人	6 人
経営情報・デザイン学科	－	8 人	4 人	0 人	0 人	0 人	12 人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0 人		64 人					64 人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法： https://www.kjc.ac.jp/about/teachers/					
c. F D（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
教員が授業内容・方法を改善し向上させるために、本学に F D・S D 委員会を置き、組織的に取り組んでいる。							
具体的には、①本学主催の研修（年 4 回）、②SPOD 主催の研修、③SPOD 以外の学外の研修							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
食物栄養学科	50 人	45 人	90%	100 人	81 人	81%	— 人	— 人
子ども学科第Ⅰ部	55 人	25 人	45.5%	110 人	57 人	51.8%	— 人	— 人
子ども学科第Ⅲ部	40 人	23 人	57.5%	120 人	103 人	85.8%	— 人	— 人
経営情報・デザイン学科	70 人	81 人	115.7%	140 人	148 人	105.7%	— 人	— 人
合計	215 人	174 人	80.9%	470 人	389 人	82.8%	— 人	— 人
(備考)								

b. 卒業者数・修了者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数・修了者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
生活文化学科	40 人 (100%)	2 人 (5.0%)	38 人 (95.0%)	0 人 (0%)
子ども学科第Ⅰ部	35 人 (100%)	4 人 (11.4%)	29 人 (82.9%)	2 人 (5.7%)
子ども学科第Ⅲ部	31 人	0 人	30 人	1 人

Ⅲ部	(100%)	(0%)	(96.8%)	(3.2%)
経営情報科	75 人 (100%)	3 人 (4.0%)	69 人 (92.0%)	3 人 (4.0%)
合計	181 人 (100%)	9 人 (5.0%)	166 人 (91.7%)	6 人 (3.3%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項) <主な就職先> 生活文化学科食物栄養専攻 【委託給食会社】(株)メフォス、(株)東洋食品、コーベフーズ(株)、一富士フーズサービス(株)、日ゼネラルフード(株)、(株)アスモフードサービス、葉隠勇進(株)、富士産業株式会社、(株)魚国総本社 【製造系】テーブルマーク株式会社 【保育園・子ども園】くれよん認定こども園、愛光こども園、春日こども園、げんき・結愛・げんきこども園、さくらの山保育園、高松西保育園 【病院・福祉施設】(医)寿愛会羽崎病院、(医)和光会中前田病院、(医)五色会、(医)純心会善通寺前田病院、(医)中和会西紋病院、特定医療法人明生会長谷川病院、(社)介護付有料老人ホームネムの木 【その他】サヌキ畜産フーズ株式会社 子ども学科第Ⅰ部・第Ⅲ部 【公務員】丸亀市1名、三豊市1名、綾川町1名、琴平町1名、まんのう町1名 【保育園・子ども園・幼稚園】(学)善通寺聖母幼稚園、丸亀社会福祉協議会しおや保育所、(社)彩芽こども園、(社)イエス団神愛館、(社)さくらの山保育園、(株)アイグラン、(学)青山幼稚園あおやま保育園、(社)わかくさこども園、(社)丸亀ひまわりこども園、(社)スマはび丘の上 station、(株)ニチイ学館ニチイキッズ六郷保育園、(社)恵城保育園、(社)平山こども園、(社)きんかこども園、(社)にこにこ福祉会、(学)丸亀城南虎幼稚園、(社)こども園すまいる、(社)観音寺中部こども園、(社)サンシャインこどもの森、(社)未知の会、(社)みらい学園、(学)太田百華幼稚園、(株)小学館アカデミー、(社)別府つくし保育園(福岡県)、(学)らく楽寺井幼稚園、(学)勅使百華幼稚園、(社)くれよん認定こども園、(社)はつき会、(社)つぐみ保育園(兵庫県)、(社)ひつじヶ丘 保育園、(社)乳児保育所こども村(愛媛県) 【発達支援・放課後等ディサービス】(株)ビッグスリーカンパニー、(株)あすなろ児童ディサービスみらいジュニア天王寺校(大阪府)、(株)Plus ONE's 多機能型療育支援センター&JOY(高知県) 【その他】(社)讃岐学園、(社)四恩の里亀山学園、(医)吉田病院 経営情報科 【公務員】高松国税局 【事務系】信金中央金庫四国支店、(株)愛媛銀行、高松信用金庫、観音寺信用金庫、(株)アクト、はら会計事務所、(株)村上製作所、(株)外林、木下製粉(株)、四国団扇(株)、(株)日本たまご、サンコー(株)、日東河川工業(株)、フジケンエンジニアリング(株)、西日本パック(株)、さぬき丸一製麺(株)、日本メディカルシステム(株)、(株)藤井製麺、横井石油(株)、(株)香川ダイハツモータース 【IT系】(株)タクマテック、(株)アイフフロント、シーアンドエス(株) 【企画・デザイン】シンエイグループ(愛媛県)、(株)レガン、(株)本気モード、ビジュアルサービス(株)、讃岐ライフスタイル研究所まちのシュレ 963、四国日清食品(株) 【製造】(株)富士印刷、(株)WaveEnergy、光精工(株)(大阪府)、新日本印刷(株)、(株)ワールドインテック(福岡県)、優和木装(株)、(株)テルミエンタープライズ、(株)コスにじゅういち(愛媛県)、三菱ケミカル(株)香川事業所(愛媛県) 【オペレーター】(株)太陽社、(株)エスビーエフ、 【営業】、(株)ブランジスタ、日栄インテック(株) 【フロント】(株)高松東急 REI ホテル 【総合職】四国福山通運(株)、中央出版ホールディングス(株)、(株)あきんどスシロー、三和工業(株)、一広(株)、タオル美術館グループ(愛媛県) <主な進学先> (4年制大学3年次編入) 中国学園大学(現代生活学部) (大学・専門学校・他) 四国学院大学香川西高等学校衛生看護専攻科、武蔵野大学通信教育部心理学専攻、日本福祉大学福祉経営学部(通信教育)、放送大学教養学部情報コース、東京デザインプレックス研究所、帝京平成大学通信教育課程				

(備考)

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
生活文化学科	43 人 (100%)	39 人 (90.7%)	0 人 (0%)	4 人 (9.3%)	0 人 (0%)
子ども学科第 Ⅰ部	37 人 (100%)	33 人 (89.2%)	1 人 (2.7%)	3 人 (8.1%)	0 人 (0%)
子ども学科第 Ⅲ部	34 人 (100%)	31 人 (91.2%)	0 人 (0%)	3 人 (8.8%)	0 人 (0%)
経営情報科	76 人 (100%)	70 人 (92.1%)	2 人 (2.6%)	4 人 (5.3%)	0 人 (0%)
合計	190 人 (100%)	173 人 (91.1%)	3 人 (1.6%)	14 人 (7.3%)	0 人 (0%)
（備考）長期履修留学生は、修業年限 2 年課程だが計画的な履修により 3 年間に渡って在学するため、必然的に留年が発生する。それゆえ本表のすべての項目から除外した。また、9 月末卒業者を卒業・修了者数に含めると入学者数との整合性が取れないため、同様に除外した。					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

（概要） 各学科・専攻課程の教育上の目的を達成するため、カリキュラム・ポリシーの下、短期大学設置基準等関係法令に合致する教育課程を体系的に編成している。 学科・専攻課程ごとの教育課程は、各授業科目を必修科目、選択必修科目及び自由選択科目に分け、これを各年次に配当して編成し、学生便覧で教育課程一覧及びカリキュラム・ツリーを学生に示している。授業は、講義、演習、実験、実習もしくは実技のいずれかにより、またはこれらの併用により行う。 授業の内容及び授業計画については、各科目担当の教員が作成し、シラバスに明記して Web 上で公開している。シラバスの作成過程は、様式第 2 号の 3 を参照のこと。
--

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要) 成績評価は、教育目標に則って、学修成果を獲得したかどうかを測ることにより行っている。具体的な取組は以下のとおりである。 ・全科目のシラバスに到達目標、授業内容、事前事後学習の時間及び内容、授業時間数、成績評価の方法・基準、教科書・参考書等を明示 ・シラバスにて学生に示された「成績評価の方法・基準」に則り、客観的に学修成果を測り、評価 ・科目の内容・特性に応じ、定期試験、あるいは試験に代わる提出物、発表等で厳格に評価を実施 ・科目担当者は各学生の成績を0～100点で採点し、その得点によって以下のように成績評価を決定 秀…90～100点、優…80～89点、良…70～79点、可…60～69点、不可…0～59点 ・本学の定める「学生指導のガイドライン」に則った担任指導により、学修意欲を把握				
学部名	学科名	卒業又は修了に必要な単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
	食物栄養学科	62単位	☒ 有・無	年間50単位
	子ども学科第Ⅰ部	62単位	☒ 有・無	年間50単位
	子ども学科第Ⅲ部	62単位	☒ 有・無	年間50単位
	経営情報・デザイン学科	62単位	☒ 有・無	年間50単位
GPAの活用状況 (任意記載事項)		公表方法： https://www.kjc.ac.jp/current-student/record-class/		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：HP (<https://www.kjc.ac.jp/about/campus-map/>) に掲載、及び本学ホームページ資料請求フォームから大学案内を入手することができる。

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
	食物栄養学科	600,000円	240,000円	303,000円	その他は実習・実験費、施設設備費及び入学年次の諸経費
	子ども学科第Ⅰ部	600,000円	240,000円	283,000円	その他は実習・実験費、施設設備費及び入学年次の諸経費
	子ども学科第Ⅲ部	384,000円	240,000円	208,000円	その他は実習・実験費、施設設備費及び入学年次の諸経費
	経営情報・デザイン学科	600,000円	240,000円	283,000円	その他は施設設備費及び入学年次の諸経費

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要) 本学では、各学科にクラスを置き、履修の方法や成績等修学に関する指導や助言を受けられるようにクラス担任制度を設け、時間割上に原則週1回のクラスアワーを配置し、クラス担任がクラス全体への指導を行う時間を確保している。 また、科目担当教員への授業科目等に関する学生の質問や相談に応じるための時間として、非常勤講師を含めた全教員がオフィスアワーを設定している。
b. 進路選択に係る支援に関する取組
(概要) 本学キャリア支援センターでは、学生一人ひとりに対する個別指導や個別相談のほか、年間を通して就職活動に関するガイダンスを開催している。1年生では、学生の進路決定のための取組や就職活動のノウハウを身につける講座を開講し、2年生では一般職と専門職に分かれて、それぞれ希望する職種に適した内容のガイダンスを受けることができる。 また、年度末に内定した学生に向けて、入社後すぐに必要となる心構えやスキルを身につけるための講座も開催している。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
(概要) 学生・教職員の心身の健康保持・増進及び学内で発生した負傷、疾病等の応急処置に対応するため、医務室を整備し2名の看護師を配属している。必要に応じて学校医の健康相談を受けることもできる。メンタルヘルスケアやカウンセリングについては、カウンセリングルームを整備しており、臨床心理士の専任教員及び非常勤の学生相談員3人を配属し、カウンセリング（学生相談）を行っている。対象となる学生に関わる教員へのコンサルテーションや精神病レベルの症状を持つ学生には、臨床心理士の専任教員が専門機関と連携し、専門医を紹介して対処している。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法： ・食物栄養学科 教職員紹介 https://www.kjc.ac.jp/about/teachers/#section-3 ・子ども学科 第Ⅰ部 教職員紹介 https://www.kjc.ac.jp/about/teachers/#section-4 ・子ども学科 第Ⅲ部 教職員紹介 https://www.kjc.ac.jp/about/teachers/#section-5 ・経営情報・デザイン学科 教職員紹介 https://www.kjc.ac.jp/about/teachers/#section-6
--

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード (13桁)	F237310110351
学校名 (〇〇大学 等)	香川短期大学
設置者名 (学校法人〇〇学園 等)	学校法人 尽誠学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生等（内数） ※家計急変による者を除く。		78人（－）人	74人（－）人	84人
内 訳	第Ⅰ区分	47人	40人	
	(うち多子世帯)	0人	0人	
	第Ⅱ区分	14人	11人	
	(うち多子世帯)	0人	0人	
	第Ⅲ区分	11人	14人	
	(うち多子世帯)	0人	0人	
	第Ⅳ区分（理工農）	0人	0人	
	第Ⅳ区分（多子世帯）	－	－	
	区分外（多子世帯）	0人	0人	
家計急変による 支援対象者（年間）				0人
合計（年間）				84人
(備考)				

※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）第4条第2項第1号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第2号イ～ニに掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	人	0人	0人
修得単位数が「廃止」の基準に該当 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が廃止の基準に該当）	人	0人	0人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意欲が著しく低い状況	人	0人	0人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	人	0人	0人
計	人	0人	0人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	人	前半期	0人	後半期	0人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

(1) 停学(3月未満の期間のものに限る。)又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学(修業年限が2年のもの)に限り、認定専攻科を含む。)、高等専門学校(認定専攻科を含む。))及び専門学校(修業年限が2年以下のものに限る。))	
	年間	前半期	後半期
GPA等が下位4分の1	0人	0人	0人

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学(修業年限が2年のもの)に限り、認定専攻科を含む。)、高等専門学校(認定専攻科を含む。))及び専門学校(修業年限が2年以下のものに限る。))	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が「警告」の基準に該当 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単 位時間数が警告の基準に該当)	人	0人	0人
GPA等が下位4分の1	人	—	—
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意 欲が低い状況	人	0人	0人
計	人	—	—
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。